

E-Mail : taniyama-cc@lagoon.ne.jp URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tvcc/>

発行人：頭島光神父 編集委員：上原敏子、上釜照美、徳永珠美

2022年 7月1日

(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

〒891-0113

鹿児島市東谷山2-33-13

TEL・099-268-2084

FAX・099-284-5738

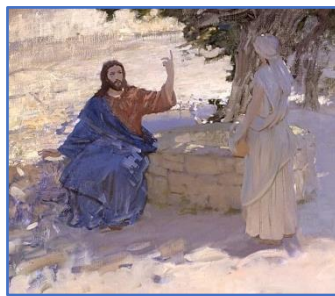
「一人一人を認めること」

カトリック谷山教会 主任司祭 トマス頭島光

一人一人を認めるには、自らが「新しい人」になっていく必要があります。それは、いわばイエスの教えの根幹でもあります。イエスは「自分を捨てて、十字架を担って、私に従いなさい」と言っています。その意味は「古い私」を捨てるようにとの教えが隠されています。これからの世界は、「いかにして異なる文化、思想、社会の風習や習慣を持つ人を受け入れていくか」と問われる時代です。私たちも異なる世界の人々を、兄弟姉妹として受け入れていくことです。そのため、私たちは自らの内に「開かれた「自由」と「新しさ」」を身につけていく必要があります。教皇様は言います。「自らを『しかと立たせ、文化の特性への愛』を基盤に持つこと」と。そうすれば確かに私たちは異なる文化とも真摯に向き合える人になるでしょう。

◆<自由の人>

あの洗礼者ヨハネのように全く自分に固執することなく、他者の考えを大らかに受け入れるなら、それは真の自由人です。つまり、自由の人であるために、まず何か特別なものに捕らわれたり、別の誰かに依存しかつ束縛されたりしないことです。それは自由への大前提です。ところが、多くの人は何かしら長いものに巻かれていて、自由かつ開かれた人とは言えないのが現実です。その点、イエスは全く自由の人であって、何を言われても動ずることなく、自分の考えを正々堂々と述べられました。ですから、たとえ自分の命が、他の人々の勝手な理由で奪い取られ、殺されようとしても、抵抗することも、言い訳することも何もしなかったのです。これは、イエスが真の自由な人であった証しであり、同時にこれが人々の救いの印となったのです。



-サマリアの井戸のそばで-

生き抜くには、もはや「古い自己」は捨て去ることです。そして、「新しい人」となるのです。

◆<自我の愛>

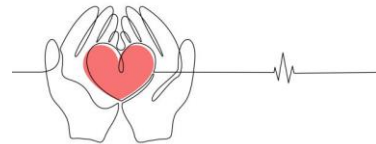
「新しい人」とは、まずもって我が国とその民を愛する者であり、その愛のゆえに、古い自分の枠をも超え出ていきます。つまり、現代社会にあつて苦しむ人、悲しむ人にも目を向け、心を留めて生きるのです。すると、ふと気が付けば、異なる文化の人々であっても、これを区別することなく、その痛みに共感し、悩みに寄り添うことになるのです。こうして、自分から超え出て、他者への愛に向いて行く人こそが「新しい人」です。このように、人は他者を認め尊重し、愛をもって優しく接して、ただの自己愛から隣人愛へと自らを深化させます。このように異なるものを受容する感性は、そのもののあり様を素直に認めかつ尊重します。そして皆が一つになることを望みます。

◆<愛の人>

「互いに愛しあいなさい。これが私の掟である」とイエスは言います。しかし、現実、どう生きればよいのでしょうか。おそらく、そのためにまず私たち自身が、「新しく自由に開かれた心」の人であることではないでしょうか。つまり、これまでの有り様とは違う別の仕方で相手を捉え直す、といった柔軟な心が必要ということです。これまで受けてきた社会的且つ歴史的な影響は、実に私たちを窮屈な時空と生活圏内に留まらせているのです。そこから、私たちは何とかして「超え出て」生きる、ということがない限り、「愛の人」にはなれないのです。これからの世界は、ますます、愛することが難しく厳しい時代に入ります。この現実にあつて、現代世界を逞しく

◆<開かれた心>

心を開くと言いますが、それは簡単に知識や頭で理解してできることではありません。なぜなら、それは感性の問題だからです。異なる他者を人として普通に、自然に、そして当たり前前に受け入れること、また自然な愛の気持ちで他者に寄り添うこと自体、心の奥底に備わっている感性的なものです。つまり、それは誰にでもある素直な心のことです。イエスが、「幼子のようになりなさい」と言われているように、従順に聞き従い、受け入れる心、それが開かれた心を生み出すでしょう。





7月の教会暦

7月17日 聖なる贖い主（祭日）

レデンプトール会の大切なお祝い日です

この祭日は、キリストにおける歴史的な出来事を思い起こすためではなく、聖なる主の贖いの神秘を、人間の歴史を超えるものとしてその深い意味と力を悟るために定められました。贖い主キリストにおいて神の愛は明らかに示され、完成されました。贖い主として「御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方」（コロサイ1・15）であり、また子において「神は前もって知っておられた者たちを、御子の姿に似たものにしようとあらかじめ定められました。それは御子が多くの兄弟の中

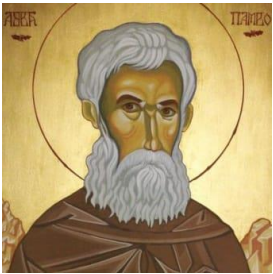


唐湊修道院

で長子となられる」（ローマ8・29）と言われている通りです。実に、キリストはこの計画を成し遂げるために「地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せる」（ヨハネ 12・32）という役割を果たし、人間を新しくするのです。「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者」（Ⅱコリント5・17）であり、その意味でまさに「神はキリストによって世を御自分と和解させ」（Ⅱコリント5・19）られたのです。 -レデンプトール宣教修道女会

ホームページより-

7月18日 聖パイポ修道士（記念日）



4世紀の砂漠の師父たちの中で最も偉大な教師の一人であったが、読むことができなかった。隠修士になるために最初に出かけたとき仲間の修道士達は詩編を暗記するように教えた。

その時、パンポは詩編39の第一節、「わたしの道を守ろう。舌で過ちを犯さぬように」を初めて聞いて、沈黙が彼の最も大きな徳の一つとなって、弟子達にもこれを教えるようになった。ある時、総司教がパンポに、何か感心するようなことを言うように頼んだところ、彼は「もし、総司教が私の沈黙に感心されなければ、私の演説に感心されることはないでしょう」と言った。

パンポは、荒れ野の師父から習った次の勧めを決して忘れなかった「あなた自身の正当さに信頼するな。過ぎ去ったことを悲しんではならない」

パンポが稀におしゃべりしたときに好んで言ったことは、「すべての人達に憐れみを示しなさい。神は情け深い人を恵んでくださる。憐れみ深ければ、あなたは救われるであろう」
-女子パウロ会聖人カレンダーより-

7月31日 聖イグナチオ・ロヨラ（記念日）

イグナチオは、スペインのバスク地方の貴族ロヨラ家に生まれ、幼いころから騎士道精神を身に付け、名誉を求めたことを価値としていた。



1521年、戦場で負傷し、病床にあったイグナチオは、キリスト伝や聖人伝を読んで感銘を受けた。そしてすべてを捨ててキリストに従う決心をし、マンレサに退いて、祈りと苦行に専心した。このときの霊的体験が、有名な著書「**霊操**」を生み出した。それから、ローマとエルサレムに行き、ヨーロッパに戻りパリ大学で勉強をした。学友の中から6人の同志を集め、パリのモンマルトル聖堂で、「より大なる神の栄光のために」、また「すべての人のために」働くことを誓って、「イエズス会」を創立した（1540年に正式に認可）。そのなかには、日本の最初の宣教師であるフランシスコ・ザビエルもいた。

-女子パウロ会聖人カレンダーより-



森は私の教会

-故ヨハン・レヒナ師レデンプトール会フォーラム記事より-

「森は私の教会」と言ったのは、私が生まれ育った町に住んでいるヨハンおじさんでした。ヨハンは独身で、年老いた母親と二人暮らしでした。毎日2キロぐらい歩いて炭鉱へ通い、何百メートルも地下にある暗いところで石炭を掘る仕事をしていました。六日間働いた後の日曜日は彼の休日でした。

60年前のドイツでは日曜日の朝はみな教会のミサへ出かけました。ヨハンも家から歩き出たけれども教会の方に向かわずに、みなと反対側にある森の方を目指して行きました。「どうして・・・」と聞かれたら、「森は私の4教会です」と答えました。

森の体験について言葉少ないヨハンは話を残しませんでした。しかし大好きな森の中で自分の神に出会ったに違いないです。彼の顔の輝きはその証拠でした。日曜日ごとの教会の祈りと歌の世界は彼の世界ではなかったようです。心の安らぎを得る場所はやはり人によって違います。

60年前のヨハンおじさんに似ている人はこの国にもいると思います。教会よりも大自然の中で天地創造の神に出会う人がいます。そこで体と心の癒しを得ることができるようにも祈っています。 2011・08・10



2022年7月<ミサ典礼>の朗読及び先唱奉仕のお願い

7月に入り、あっという間に梅雨が終わり、暑い夏がもう目の前です。さて、7月は贖い主の月です。特に第3日曜日がその日に当たっています。贖いの主に祈り、平和が訪れることを心から祈りましょう。平和は、まず私たちの心から始めましょう。頭で平和を論じるのではなく、キリストの言葉から読み取りましょう。そこで、説教の中でも言いましたように、とくに7月の主日の福音はルカが読まれます。みことばからキリストの平和を感じ取ってほしいと思います。いうまでもなく、ウクライナの人々の平和を願い祈り続けましょう。そして、今後もコロナウィルス感染症対策を徹底し、手指消毒、検温及びマスク着用を心掛けましょう。依然として、聖堂内では80人の制限付きですが、聖歌は歌っていきます。ミサ典礼及び朗読奉仕に、これからもご協力を願います



聖歌は歌うけど少し抑えて歌いましょう。コロナです☺

◆受付での手指消毒及びマスク着用と検温、そして署名等のカード記入に協力願います。

◆9時ミサの聖堂入場制限は80人のまま続けます(*但し、典礼奉仕者を除く)。

◆上記の人数を超えても、玄関ロビーから参加可能です。

◆尚、泣部屋は子ども連れのご家族に割り当てられています。

◆聖堂内では座席番号に、お間違いのないようにご着席ください。

◆一部、窓を開けて換気し冷房の温度を高め(26°~27°C)し稼働させていきます。

◆聖体拝領は、一列に並び、前後1m、間隔を空け、ゆっくり前へと順にお進みください。

7月の典礼の先唱及び朗読の役割分担は以下の通りです。

◇ 7月3日	年間第14 主日	午前9時ミサ~ライブ配信~先唱及び朗読奉仕	● 5/11 班
◇ 7月10日	年間第15 主日	午前9時ミサ~ライブ配信~先唱及び朗読奉仕	● 6/7 班
◇ 7月17日	年間第16 主日	午前9時ミサ~ライブ配信~先唱及び朗読奉仕	● 8/9 班
◇ 7月24日	年間第17 主日	午前9時ミサ~ライブ配信~先唱及び朗読奉仕	● 10 班
◇ 7月31日	年間第18 主日	午前9時ミサ~ライブ配信~先唱及び朗読奉仕	● 1 班

★さて、新しいミサ典礼式次第は、いよいよこの7月1日付けで発行されます。私たちの手元にも近いうちに届くことでしょう。これを受けて、また勉強会を企画していきたいと思えます。鴨池教会では7月17日からミサ典礼勉強会が12月にかけて行われるようです。表を出していますので、もしそちらに行かれない方は、だれでも参加できるとのことですから、お知らせいたします。谷山での典礼研修会は、典礼委員会のメンバーを中心に行いますが、朗読担当及び典礼奉仕の係にあたる人はできるだけ、参加しましょう。勿論、その他にも勉強したい方があれば、誰でも参加できます。開催日程については後日お知らせいたします。勉強会の時間は、夕方6時半から一時間程度を考えています。曜日は木曜日を予定しています。

2022/7/1 主任司祭 トマス頭島 光

募集 オルガニストと ソリスト



お 知 ら せ

教会では、日曜日のミサ中にオルガンを弾いて下さる方、独唱(典礼聖歌)をして下さる方の募集をしています。

ご希望の方はご連絡下さい。

係・木下まで



ハンドベルの巨匠 安楽晃先生ご帰天



川内純心で音楽教諭として職務を全うされ、定年後は、ハンドベル指導にご尽力され、日本ハンドベル連盟九州支部長もされていきました。ご冥福をお祈り申し上げます



6月24日ご逝去
6月27日・告別式
カトリック谷山教会にて

令和4年(2022年)谷山教会07月の予定と祝日表(07月01日~07月31日)

日 時		典礼と行事	朗読奉仕者	掃除当番	班会	
1日	金	記念日 19:00 福者ペトロ岐部司祭と187殉教者 初金ミサ	今月の 行事当 番班は 10.班 です。			
2日	土	19:00 年間第14主日のミサ/聖母の土曜日			⑤⑪	教会
3日	日	9:00 年間第14主日 *14:00~ベトナム人ミサ 6:30ミサなし/14:00~鹿屋主日ミサ(頭島神父)		⑤⑪		
4日	月	6:30 朝ミサ				
5日	火	6:30 朝ミサ(萩原神父)/週日川内ミサ18:00(頭島神父)				
6日	水	19:00 召命ミサ				
7日	木	6:30 朝ミサ				
8日	金	6:30 朝ミサ				
9日	土	19:00 年間第15主日のミサ/聖母の土曜日			⑥⑦	教会
10日	日	9:00 年間第15主日/14:00~北薩地区信徒総会ワークショップ 6:30ミサなし/11:00川内ミサ(頭島神父)		⑥⑦		
11日	月	記念日 6:30 聖ベネディクト修道院長 朝ミサ				
12日	火	6:30 朝ミサ(萩原神父)/週日川内18:00(頭島神父)				
13日	水	19:00 召命ミサ				
14日	木	6:30 朝ミサ				
15日	金	記念日 6:30 聖ポナベントウラ司教教会博士 朝ミサ				
16日	土	19:00 年間第16主日のミサ/カルメル山の聖母		⑧⑨	教会	
17日	日	9:00 年間第16主日/6:30ミサなし/贖い主の主日	⑧⑨			
18日	月	6:30 朝ミサ 海の日				
19日	火	6:30 朝ミサ				
20日	水	19:00 召命ミサ				
21日	木	6:30 朝ミサ				
22日	金	祝日 6:30 聖マリア(マグダラ) 朝ミサ				
23日	土	19:00 年間第17主日のミサ/聖母の土曜日		⑩	教会	
24日	日	6:30&9:00 年間第17主日/祖父母と高齢者のための世界祈願日 6:30ミサ(頭島神父) 9:00ミサ(萩原神父) *15:00~教会役員会(萩原神父)	⑩			
25日	月	祝日 6:30 聖ヤコブ使徒 朝ミサ				
26日	火	記念日 6:30 聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ 朝ミサ				
27日	水	19:00 召命ミサ				
28日	木	6:30 朝ミサ				
29日	金	記念日 6:30 聖マルタ、聖マリア、聖ラザロ 朝ミサ *18:30~典礼委員会				
30日	土	19:00 年間第18主日のミサ/聖母の土曜日/司牧評議会設営1班		①	教会	
31日	日	6:30&9:00 年間第18主日/9:00ミサ後司牧評議会 /14:00~コミチウム	①			

ロザリオの祈り	毎週火曜日 10:00~	5, 12, 19, 26日
レジオ・マリエ	毎週水曜日 14:00~	6, 13, 20, 27日
聖書と教理 - II	毎週金曜日 10:00~12:00	1, 8, 15, 22, 29日